平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会

第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体

平成20年7月30日(水)　　二回戦

Jコート　第4試合　　本庄市児玉総合公園体育館(エコーピア)

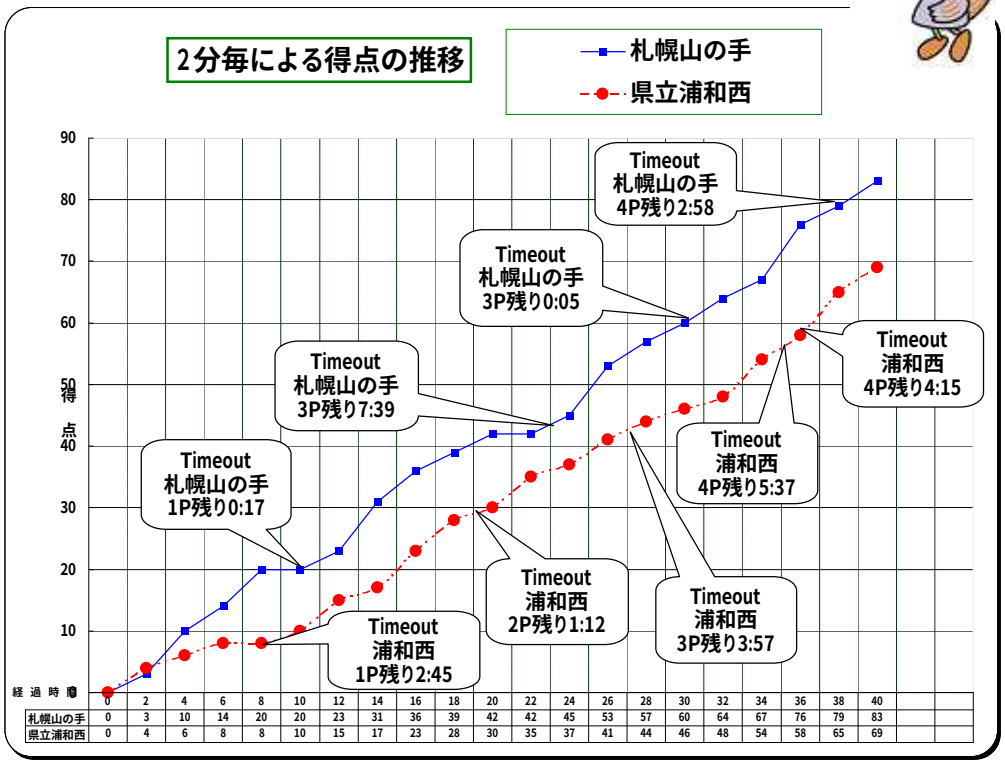
チームA			チームB
札幌山の手 北海道	83	20 － 10 22 － 20 18 － 16 23 － 23 －	69	県立浦和西 埼　玉

札幌山の手

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	齊藤桃子	X	14	2	5	1	4	6	7	1	2	4	5	1	3	1	34
5	平野咲子	X	7	0	0	2	8	3	6	1	2	6	6	3	5	2	38
6	山田千智	／	18	6	16	0	1	0	0	0	4	6	2	3	2	0	28
7	小山さおり	X	27	3	4	6	13	6	7	2	5	5	6	0	3	0	37
8	元茂麻湖		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
9	岡亜理紗		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
10	栃本美紗子	X	6	0	1	2	7	2	3	0	3	2	0	1	1	1	10
11	今野真澄	X	4	1	1	0	1	1	2	1	2	1	4	4	3	0	31
12	千田美喜子	／	7	0	0	3	4	1	4	0	3	1	2	0	0	0	19
13	高田汐織		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
14	本川紗奈生	／	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	町田瑠唯	／	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
コーチ	渡邊勝也									0	2	4					
出場:×は先発、／は出場			83	12	27	14	38	19	29	5	23	29	25	12	17	4	200
			確率	44.4%		36.8%		65.5%			計	52					

県立浦和西

番号	氏名	出場	得点	3P 成功	3P 試行	2P 成功	2P 試行	FT 成功	FT 試行	反則	リバウンド OF	リバウンド DF	TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
4	増子友紀	X	9	1	3	3	7	0	0	5	1	3	7	3	7	1	31
5	木村友美	／	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6	石川睦	X	6	0	0	3	5	0	0	5	3	3	4	3	4	2	35
7	安達有那		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	牧野何日香	X	21	1	3	9	17	0	0	2	1	3	1	1	1	1	40
9	桃木春華	X	9	0	4	4	11	1	2	4	2	4	1	11	4	1	35
10	泉利恵	／	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
11	伊東杏菜		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	高橋咲	X	16	0	1	7	16	2	2	4	1	1	1	4	2	0	36
13	吉田瞳	／	6	2	5	0	1	0	0	2	0	0	3	0	1	0	17
14	江﨑桃子	／	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	清水祥子		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	田嶋武司									0	7	8					
出場:×は先発、／は出場			69	4	16	27	58	3	4	23	15	22	17	22	19	5	200
			確率	25.0%		46.6%		75.0%			計	37					



経過時間	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
札幌山の手	0	3	10	14	20	20	23	31	36	39	42	42	45	53	57	60	64	67	76	79	83
県立浦和西	0	4	6	8	8	10	15	17	23	28	30	35	37	41	44	46	48	54	58	65	69

戦評

速さと経験を武器に上位をうかがうインターハイ常連の古豪札幌山の手と、どこからでも攻撃できるパッシングと堅い守りが持ち味の地元浦和西との注目の一戦。序盤、互いに厳しいディフェンス、そして激しくルーズボールを取り合う緊迫した展開となる。札幌山の手は＃4斉藤の3P、更に＃7小山がジャンプシュートをたて続けに決める。浦和西は＃4増子のカットイン、そして＃8牧野のジャンプシュートで応戦するが、札幌山の手＃7小山の放つシュートが次々とネットを揺らす。第2P、1Pの勢いそのままに札幌山の手が突っ走るに見えたが、ここで浦和西は速いパスまわしからモーションオフェンス、そしてチェンジングディフェンスと果敢に攻め、互角にわたりあう。浦和西が＃8牧野のジャンプシュート、＃4増子、＃13吉田の3Pでゴールを奪えば、対する札幌山の手は＃4斉藤のジャンプシュート、＃6山田の3Pで取り返す。第3P、浦和西は＃9桃木の速攻を皮切りに、＃12高橋のドライブ、＃8牧野の3Pと2分過ぎに一気に5点差に迫る。ここで一時得点の止まった札幌山の手は＃6山田の連続3P、＃11今野の3Pで浦和西に傾きかけた流れをもう一度自チームに呼び込む。14点差で迎えた第4P、浦和西が＃6石川、＃9桃木のジャンプシュートで一歩詰め寄れば、札幌山の手は＃5平野、＃7小山のシュートですぐ突き放すという、つかずはなれずの展開が続く。

5分すぎ、浦和西＃4増子がチャージングで5ファールとなり万事休すかと思われたが、そこから最後の力を振り絞り、プレスを仕掛ける。しかしながら、相手の動きを冷静に見極め、パスでギャップをつく札幌山の手が、粘る相手を振り切り勝利する。共に最後まで力を出し尽くしたゲームに会場からは大きな拍手が送られた。

主審	安富　朗	副審	飯尾　勝紀	戦評	原嶋　巡 (埼玉県高体連)

3P：スリーポイントシュート、2P：2ポイントシュート、FT：フリースロー、OF：オフェンス、DF：ディフェンス、TO：ターンオーバー、ST：スティール、AS：アシスト、BS：ブロックショット